

## 国内屈指の古地図コレクション寄託される！

県立歴史博物館では、福山市出身の守屋 壽<sup>もりや ひさし</sup>氏（東京都在住）から、「守屋コレクション」848点の寄託を受けました。16世紀から19世紀の古地図が中心で、日本が描かれた西洋製古地図の個人コレクションとしては国内でも随一のものであります。

4月には、当館と福山市鞆の浦歴史民俗資料館で展示会を予定しています。



瀬戸内海の拡大図

世界初！

Toumo（鞆の浦）が西洋製の地図に初めて記載！

※ 現在の地図と違い、上が東、左が北と表される。



ラングレン「アジア図」（1596年刊行『東方案内記』所収）

### 1 コレクションの見どころ

#### (1) 国内屈指となる規模の西洋製日本地図！

日本が、西洋で長く伝説の国「ジパング」として想像で描かれた時代の地図から、大航海時代を経て次第に明らかになる地図まで、日本の形の変遷をたどることができる。日本に関する西洋製古地図の個人コレクションでは、国内随一の規模と内容を誇る。

#### (2) 日本人による江戸時代の地図を網羅！

行基<sup>ぎょうき</sup>図や伊能忠敬、石川流宣、長久保赤水<sup>とものが せきすい</sup>などの江戸時代を代表する日本地図を網羅しており、日本人が作った世界地図のコレクションとしては完成度が高い。

#### (3) 地元ゆかりの貴重な歴史資料が多数！

ケンペル、シーボルトが鞆の浦への寄港を記録した著作、幕末の福山藩主阿部正弘とも関連の深いペリーの日本の報告書、福山城下の絵図や朝鮮通信使など鞆の浦に関連する郷土資料など、現在では入手困難な資料が多い。



くさどっきー



せんちゃん

【担当】広島県立歴史博物館学芸課長 白井 比佐雄

(電話) 084-931-2513

(e-mail) [rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp)

(URL) <http://www.manabi.pref.hiroshima.lg.jp/rekishih/>

## 2 コレクションの概要

コレクションは、16 世紀～19 世紀の古地図と原資料から構成される。江戸時代を中心とした日本と西洋などとの文化の国際交流の様子を明らかにする上で貴重な資料で、鞆の浦や瀬戸内海が果たした役割を知ることでできる郷土に関連した歴史的資料も多数含まれている。

また、「鎖国」状況下の日本で情報を海外に持ち出すこと、西洋の知識・情報を国内で入手することが困難な中、当時の内外の先人たちの「真理」を追究する強い意志と努力、熱い行動力を私たちに示している。

内 訳	点 数
西洋製の古地図類	133 点
日本製の古地図・絵図類	210 点
西洋の近世日本を伝える絵画及び書籍	94 点
朝鮮通信使・琉球関係資料	21 点
古典籍	84 点
その他の資料（絵画資料・引き札・古写真など）・参考図書	306 点
合 計	848 点

## 3 代表的な資料

### (1) 西洋製の地図



オルテリウス「世界図」(1592年)

近代的な地図製作を確立した大型の地図帳『世界の舞台』の中の世界全図で、遣欧少年使節が日本に持ち帰ったことで知られる。



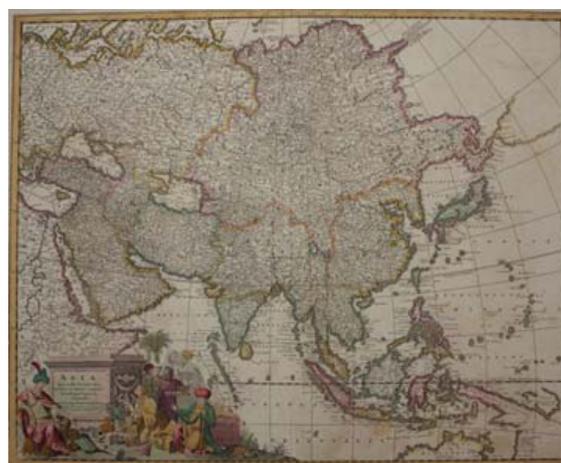
ダッドレー「日本図」(1646年頃)

イエズス会士が作図したものを原図とした「モレイラ型」と呼ばれる初期の日本図で、入手が困難な稀少資料である。



メルカトル「アジア図」(1595年)

「メルカトル図法」で知られる地図学者が、製作・出版した初の世界地図帳『アトラス』の中のアジア図である。



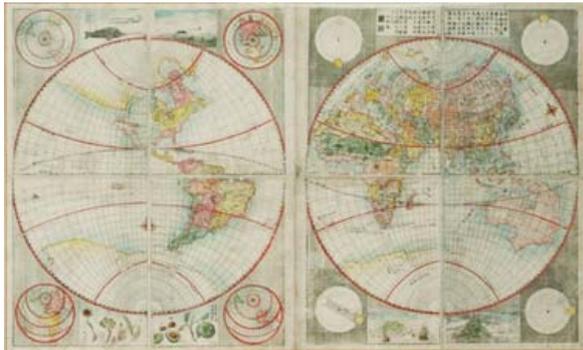
ファルク「アジア図」(1710年頃)

アムステルダムの地図製作者によるアジア図で、北海道東岸の海岸線は、17世紀半ばのオランダ人の探検・測量の成果である。

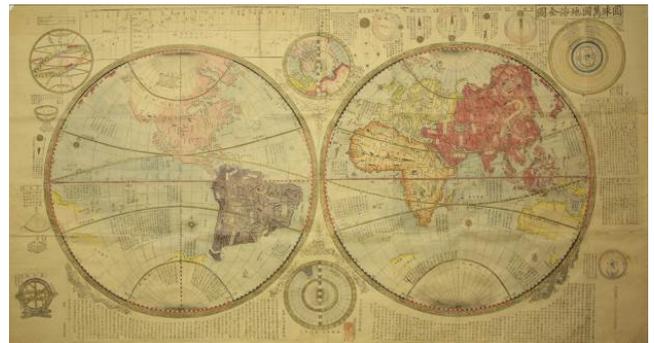
(2) 日本製の地図



「行基図屏風」(17世紀頃) 江戸時代以前に広く流布していた「行基図」を描いた屏風



司馬江漢「地球図」(寛政4年(1792))  
江戸時代後期を代表する洋風画家で蘭学者による日本初の銅版の世界図



石塚崔高「円球万国地海全図」(享和2年(1802))  
薩摩藩主島津重豪の命により刊行された近世最大の木版製世界地図



円通「須弥山儀銘並序」(文化10年(1813))  
仏教の世界観の模型を描いた図。中央に須弥山がそびえ、人の住む世界はその南の陸地とされる。



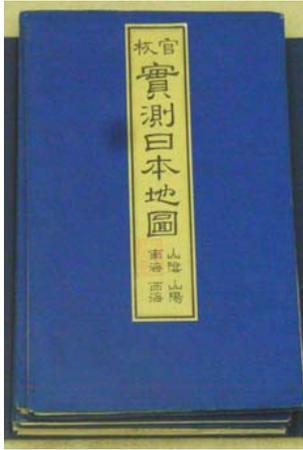
高橋景保「新訂万国全図」(文化7年(1810))  
シーボルト事件で獄死した幕府の地図学者による当時の世界最高水準の大型世界図



石川流宣「日本海山潮陸図」(元禄4年(1691))  
浮世絵師による江戸時代中期の代表的な日本図で、西洋の日本図にも採用されるなど影響を与えた。



長久保赤水「改正日本輿地路程全図」(安永8年(1779))  
初の経緯線・縮尺を明記した正確さと精密さを追求した江戸時代後期の代表的な刊行日本図



**伊能忠敬**  
 「官板実測日本地図」  
 (明治3年(1870))  
 伊能図が完成後50年  
 を経て初めて刊行され  
 た。大学南校による木版



**林子平**  
 『三国通覧図説』  
 (天明5年(1785))  
 当時の日本の海防と蝦  
 夷地の開発の必要性を説  
 いた書物で、作者は幕府の  
 弾圧を受け、書物は絶版と  
 なったこともあり、本資料  
 は大変稀少である。

(3)-1 国際交流を示す資料(地図を除く)

① ケンペル『日本誌』(1728年)

日本に滞在したドイツ人医師の日本に関する著作で、「鎖国」の用語のもとになった書物としても知られる。

② シーボルト『日本』(1833年)

長崎に滞在し「鳴滝塾」で多くの蘭学者を育てたドイツ人医師による日本の研究書 日本人画家による写実性の高い挿図が多く収録される。

③ 『ペリー艦隊日本遠征記』(1856年)

東インド艦隊司令長官ペリーの日本遠征の報告書。日本の風景や風俗などを描いた多くの挿図を含む。(右はペリー肖像)



(3)-2 郷土関連資料



「備後国図」(17世紀)



「安芸図」(17世紀)

ともに寛永10年(1624)に幕府が作成した日本図の資料とされた国絵図の写し



「備後国福山御城並城下之図」(江戸時代)

武家屋敷に水野氏時代の家臣名の付箋がある。



玉蘭齋「万象写真図譜」(文久4年(1864)) (部分)

幕末から明治で活躍し、当時最も人気のあった浮世絵師・地図作家による鞆の浦の鳥瞰図を含む画集